

# 専門高校の現場から

～進学指導と生徒の動向～

## 第2回 商業高校(2)

前号に続き、商業系専門高校からの大学進学に向けた取り組みをレポートする。大阪ビジネスフロンティア高校では、生徒の進路として大学進学を明確に打ち出し、高大連携の強化を進めて、高大7年間の接続教育に取り組んでいる。

### 商業高校の概況(2)

#### 社会のニーズに応え 新しい分野で専門性を強化

近年、商業高校は教育の領域を広げ、マーケティング分野(マーケティング、商品開発、広告・販売促進)、ビジネス経済分野(ビジネス経済、経済活動と法)、ビジネス情報分野(情報処理、プログラミング、電子商取引)において専門的な教育を行っている。科目は、地域の企業のニーズなどを考慮し、各高校が独自に設定している。

大学進学者の入学先は商、経済、経営、会計、法律などの学部・学科が中心になるが、高校で学んだ多様な知識を基に、教育系や外国語系にも2~3割が進学している。

#### 実学を通して 主体的な学習姿勢を育成する

勉強することの意義を理解し、どんな力が必要なのかを生徒自身に考えさせるために、実社会に即した学びを提供している。

特に力を入れているのがマーケティング能力の育成である。地域と連携した特産品の開発や事業のプロデュースを通じ、顧客満足の実現に向けて課題を探し、研究、解決する方法を学ぶ例が増えている。こうした動きを受け、2013年度から施行される新学習指導要領には「商品開発」が新科目として設けられた。

### 事例

#### 大阪市立 大阪ビジネスフロンティア 高校

設立：2012年  
区分：公立学校  
生徒数：319人(2013年3月時点)  
設置学科：グローバルビジネス科

#### 商業に加え英語を重視し 大学進学をめざす

商業高校の大学進学率が上昇する中、「大学進学」を明確に打ち出しているのが、大阪市立大阪ビジネスフロンティア高校だ。2004年に大阪市教育委員会が発表した「新しいタイプの商業高校の設置構想」を基盤に、東商業高校、市岡商業高校、天王寺商業高校の3校の再編・統合で、2012年度に開校した。現在は、1、2年生が学ぶ同校内に、3年生のみが在籍する3校が併存している。

「日本はグローバル化が進み、国際社会での競争力がますます必要とされている。専門的な知識を修得した職業人の育成が、大阪の高校や大学でも共通課題だった」と進路指導部長の黒田誠教諭は話す。こうした背景から、商業の専門知識と英語力を身に付け、商・経営学部や外国語系学部などへの進学をめざすビジネス系の高校として誕生した。

母体となった3商業高校は地域の伝統校であり、それぞれが就職率ほぼ100%の実績を誇っていたこともあって、入学時の進路アンケートでは

80%近くが就職を希望していた。

大阪ビジネスフロンティア高校では進学希望者が増え、第1期生の入学時の調査では、進学志望と就職志望の比率が8:2と逆転した。

進路について明確な目標を掲げる生徒が増えたのも特徴である。入学時から、希望の進学先として具体的な大学名や学部・学科名を挙げる生徒も少なくない。

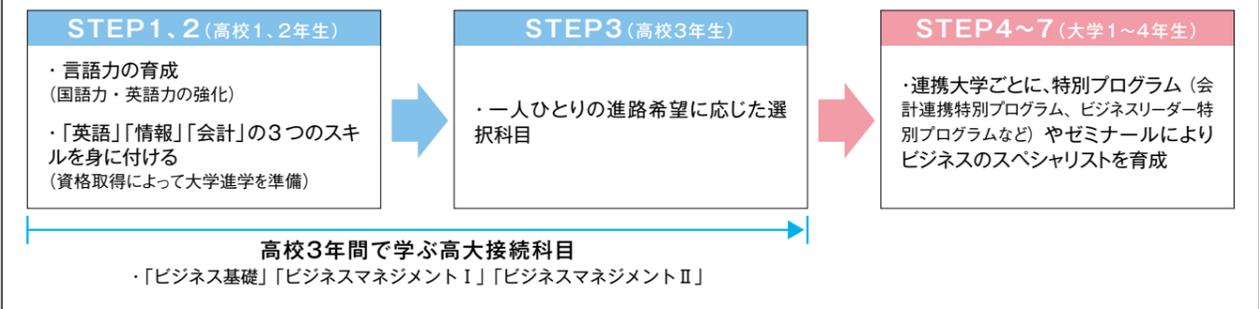
生徒の目標設定が明確になった背景には、「大学進学指導」と並ぶ特色である「高大連携」の後押しがある。天王寺商業高校が、大阪市立大学、関西大学それぞれの商学部との間で体験講義やゼミ見学などを行ってきた実績を生かして、高校・大学の7年間を見通したカリキュラムを導入。現在は大阪市立大学、関西大学、関西外国語大学と連携している。

高校在学中に、英語・情報・会計などの資格(実用英語技能検定、ITパスポート、日商簿記検定など)を複数取得することによって、これらの3大学の特別枠や推薦入試の受験が可能になる。「ただし、各大学の合格のハードルは高く、普段の授業を通して専門知識を修得することが大前提。連携大学は今後増える可能性もあり、大学進学に対する意欲向上につなげてほしい」と黒田教諭は言う。

#### 接続科目の授業は 連携大学の教員が担当

同校のカリキュラムには、高大連携の柱となる高大接続科目が導入されている。「ビジネス基礎(1年次)」「ビジ

図表 高校・大学7年間を見通した教育プログラム



ネスマネジメントⅠ(2年次)」「ビジネスマネジメントⅡ(3年次)」の3科目である。経済学、経営学、法学の基礎や経営リテラシーを学び、探究型学習を通して「考える力」を育成する。

接続科目の授業は連携大学の教員も担当しており、高校から大学レベルの授業が受講できる。1年次の「ビジネス基礎」は、関西大学商学部の教員が執筆した独自のビジネス教育テキスト「ビジネス・アイ」を使用して実学中心の授業を行っている。従来の商業科目だけでなく、グローバルビジネスの担い手を育てるために、創造力やアイデア構築力の育成をめざしている。

連携3大学以外にも、近畿大学、京都産業大学、桃山学院大学などの協力を得てマーケティングや国際会計検定に関する特別講義を行うなど、大学との連携のさらなる強化にも努めている。

独自カリキュラムの設定には連携大学が協力しており、ビジネス教育のほか、国際社会に通用する語学力の育成にも力を入れている。例えば1・2年次では、英会話力を磨く「総合英語」と文法学習中心の「英語表現」の2科目を、少人数編成で週に6時間設けているが、これは、情報(週3時間)や簿記(週5時間)よりも多い授業数だ。「ここ数年、商業系の学部・学科をめざす生徒の英語力が重要視されている。このカリキュラムによって、“英語が苦手な商業高校生”というウィークポイントを解消したい」(黒田教

諭)。

また、7時限の授業を週に3日実施して基礎学力の充実を図っている。その他、土曜日講座の時間に推薦入試対策の小論文講座を開講。約100人の生徒が参加している。今後は国語・数学・英語を中心とする普通教科の重点指導も取り入れる予定である。

1期生が3年生になる2014年度には、進路希望に応じて「選択科目」を新設する。専門分野のさらなるステップアップをめざす「会計実務」や「情報演習」、センター試験準備のための「現代文演習」や「古典講読」など、幅広い科目の開講を予定している。

#### 産学連携で身に付ける 課題発見・解決力

キャリア教育の一環として、産学連携教室を実施している。商業・ビジネスに対する興味・関心をより深めるとともに、目標に向けて取り組むプロセスを体験させるためである。2012年度には、監査法人やNPOと連携。現職の公認会計士からアドバイスを受け、各種財務指標を基に企業の決算データを分析してプレゼンテーションした。このプログラムに参加することにより、授業で学ぶ簿記や会計の知識が社会と密接な関係にあることが実感でき、学習に対するモチベーションアップにつながっているようだ。

ほかにも「キャリアサポートプログラム」として、大阪商工会議所が運営

する大阪企業家ミュージアムの小・中学生を対象とする見学プログラムの考案や、地元企業の商品を使ったメニューの企画・開発などに取り組み、自ら考え、行動する力を身に付ける。

#### 新入生に触発され 在校生の進学率が上昇

現在は、併存する4校それぞれカリキュラムが異なるため、全校規模の進学指導プログラムを実施しにくいのが実情である。一方で、大阪ビジネスフロンティア高校の開校を機に、3商業高校の在校生が就職から進学へと進路転換をする例が増加した。2012年度スタート当初、進学希望の3年生は3校全体で30%強しかいなかったが、最終的には約半分が進学した。大学進学を目標に定めた新入生の姿勢に刺激を受けた結果といえよう。

大阪ビジネスフロンティア高校としての卒業生はまだ出ていないが、今後入試対策講座などの進学指導に力を入れて意欲を高め、一人ひとりの進路希望に応えられる学習の場を整備していくという。「生徒には、高校で学んだ商業と英語の知識を大学でさらに深めてほしい。大学は、高校で特定の資格を取得していれば受講免除になる科目がある場合は、その次のレベルの科目を設置するなどして、専門高校からの進学者の知識をさらに深化させていきたい」と黒田教諭は大学に期待を寄せている。